

**良田集落「集落営農ビジョン」**  
**(人材確保型支援 ・ 規模拡大・発展型支援)**

※該当する支援メニューに○を記入

作成日：令和3年10月25日

修正日： 年 月 日

市町村名	鳥取市	組織名	農事組合法人 良田生産組合
1 地区の範囲 鳥取市良田地区			
2 地区の概要			
水田面積 11.0ha	主な水田栽培作目 水稻	農家数 19戸	
認定農業者数 1経営体	人・農地プランの中心となる経営体数 1経営体		
3 組織の概要			
設立時期 (規約等の制定日) 平成11年6月1日	経営面積 19.3ha	構成農家数 12戸	
組織形態 (該当形態に○を記入) ・ 共同利用型 ・ 作業受託型 ・ <b>協業経営型</b>			
役員の数・年齢 3人 (平均年齢 61歳)			
オペレーターの数・年齢 5人 (平均年齢 61歳)			
その他集落営農活動に参画している人数・年齢 7人 (平均年齢 70歳)			
4 集落営農に対する基本方針			
<b>【集落農業の現状と課題及び課題を解決するための対応方針】</b>			
(1) 担い手の明確化及び水田利用集積目標			
<p>農事組合法人良田生産組合は、少子高齢化の波押し寄せてくる前に法人設立し、現在第23期を迎えている。設立当時の『集落の農地は集落で守ろう、地域の農地は地域で守ろう』を合言葉に現在に至っている。</p> <p>毎年、気象条件が変わる中で経営を安定させ、担い手を確保していくことは困難を極めている。共同作業でも高齢者の出役は少なくなり、従事分量配当制の農事組合法人よりも、給料制の株式会社等への組織の改革を検討すべきと思っている。また、近隣で耕作している法人及び個人認定農業者等と乾燥調製施設の共同利用、土壌改良材の散布、除草剤の散布、病害虫防除、追肥の共同作業等が出来ないか模索中である。</p> <p>地域の農地のうち優良農地はすべて集積し、集積していないのは他地区の所有者が管理をせずに放棄している農地か条件の悪い農地のみである。そのため、目標年度での集積率の向上は困難である。</p>			

農地貸借は農地中間管理機構を利用しており、集積目標は受託作業を含め約30haを目指している。併せて、大豆収穫、ハトムギ収穫、水稲の収穫及び乾燥調製の作業受託が経営の柱の一つとなり得るように作業計画に反映していく。

#### (2) 水田の作付計画（水稲以外の作物を含む）、活用方針・具体策

水稲、ハトムギ、飼料用とうもろこし、アスパラガス、玉ネギ、白ネギを栽培し、育苗ハウスでストックを栽培している。

ハトムギ、飼料用作物は、団地化及びブロックローテーションで取り組む。

アスパラガス、白ネギは、栽培面積を増やしていく。

飼料用作物は、とうもろこしと飼料用米(SGS)を検討している。

#### (3) 農業用機械施設の効率利用

現在、組合では個人所有のコンバイン（4条刈1台）を無償にて借り受けており、修理費は組合負担で維持管理している。このコンバインは使用開始から17年目であり、キャタピラ部分や脱穀部分の修理が多く、最適期の収穫作業に支障きたすことがある。このコンバインを廃棄して、高精度で脱穀でき、湿田でも作業能率が落ちずに効率的に収穫できる機械を導入して、適期収穫を行い、品質の向上を図る。

白ネギ及びハトムギの除草効果を高めて、初期生育を向上させるために、除草用アタッチメント付きの乗用管理機を導入する。

地力増進と肥料コスト低減のための堆肥利用ができるように堆肥散布機を導入し、良田地区内全ほ場で活用する。

出荷調整作業に多くの時間を費やす白ネギ栽培は白ネギ根葉切り機を導入して、省力化を図り、減少した労働時間で別の作業を行うようにする。

今後、整備が必要なものは、収穫物の出荷前の一時保管場所（倉庫）と水稲の乾燥調製施設の移転である。

これらの農業用機械及び施設を順次、計画的に整備していくことで多くの品目を栽培している中でも効率化を図るとともに、収益を増加させていく。

#### (4) 人材の確保、後継者育成に関する方針

労働力を年金受給者に頼っている現状から脱皮し、雇成型経営組織に変更し、後継者の確保や労働意欲を高め、利益が出る方策を模索していくしかないと考えている。

半農半Xができるような若者、農業を生業と考える若者たちを求めている。農業大学の就職説明会に参加してPRをおこなっている。

地区の若手には休日に田植時の苗運搬、収穫時の粃運搬のアルバイトを依頼し、収穫祭等に参加要請してコミュニケーションを取るように心がけている。このような取組を通して、長期経験者の持つ生産技術の継承や営農意欲の向上を目指す。

#### (5) 経営多角化の方針・具体策

水稲、ハトムギ、飼料用作物、露地野菜、作業受託で多角化を考えている。ハウスは水稲苗、白ネギ育苗苗及びストック栽培の3回転を行い、露地は白ネギ、玉ネギ、アスパラガス栽培し、共選、JA直売所、市場に出荷し、また、直接販売も行っている。

新規導入作物についてもJA及び農業改良普及所等から情報収集を行い、当地に適すると思われる品目があれば、検討する。

販路拡大については、ホームページ等を利用しPRに努め、JA関係直売所以外にも出荷するようにし、個人店舗等にも直接販売を目指す。

【人材確保型支援は記入必須】

5 人材確保のための取組方針

【項目】		【実施年度】		
		○年度	○年度	○年度
人材 育 成 研 修	実務研修			
	免許取得			
	その他			
集落営農活動への参画				

【人材確保型支援（うち畦畔管理省力化支援）は記入必須】

6 畦畔管理の省力化のための取組

(1) グランドカバープランツ施工計画

施工場所：

施工対象面積（畦畔実面積）： ha

本田（＝水張）面積： ha

年数	内容	面積 (ha)	金額 (円)	実施年度
1年目				
2年目				
3年目				

注1) 記入欄が不足するときは、適宜追加すること。

(2) 畦畔管理用機械導入計画

(機械利用対象畦畔面積 ha、本田（＝水張）面積 ha)

機械施設名	規格能力	台数等	金額 (円)	導入予定年月

(3) 畦畔管理用作業の状況

内容	現状 (年度)	事業実施後 (年度)
取組対象（予定）面積 (ha)		
取組対象面積当たり年間 作業時間		

注1) 取組対象圃場について記載すること。

2) 記入欄が不足するときは、適宜追加すること。

【規模拡大・発展型支援は記入必須】

7 集積（経営、機械の共同利用及び作業受託）の目標

【項目】		【現状】	【目標】 令和6年度																													
農地の集積	集積面積 A	7.5ha	7.5ha																													
	対象水田面積 B	11.0ha	11.0ha																													
	集積率 A/B	68%	68%																													
	地区外集積面積 C	11.8ha	14.5ha																													
	経営面積 A+C	19.3ha	22.0ha																													
経営の多角化への取組	<table border="1"> <tr><td>飼料用トウモロコシ</td><td>230a</td></tr> <tr><td>ハトムギ</td><td>149a</td></tr> <tr><td>大豆</td><td>0a</td></tr> <tr><td>白ネギ</td><td>21a</td></tr> <tr><td>玉ネギ</td><td>8a</td></tr> <tr><td>アスパラガス</td><td>3a</td></tr> <tr><td>ストック</td><td>5a</td></tr> </table>		飼料用トウモロコシ	230a	ハトムギ	149a	大豆	0a	白ネギ	21a	玉ネギ	8a	アスパラガス	3a	ストック	5a	<table border="1"> <tr><td>飼料用トウモロコシ</td><td>200a</td></tr> <tr><td>ハトムギ</td><td>100a</td></tr> <tr><td>大豆</td><td>100a</td></tr> <tr><td>白ネギ</td><td>30a</td></tr> <tr><td>玉ネギ</td><td>14a</td></tr> <tr><td>アスパラガス</td><td>10a</td></tr> <tr><td>ストック</td><td>5a</td></tr> </table>		飼料用トウモロコシ	200a	ハトムギ	100a	大豆	100a	白ネギ	30a	玉ネギ	14a	アスパラガス	10a	ストック	5a
	飼料用トウモロコシ	230a																														
	ハトムギ	149a																														
	大豆	0a																														
	白ネギ	21a																														
	玉ネギ	8a																														
	アスパラガス	3a																														
	ストック	5a																														
飼料用トウモロコシ	200a																															
ハトムギ	100a																															
大豆	100a																															
白ネギ	30a																															
玉ネギ	14a																															
アスパラガス	10a																															
ストック	5a																															
		・新規作物導入に取り組む																														

注1) 経営の多角化への取組は、該当する場合のみ記載すること。

8 農業用機械施設の整備方針

1 機械施設の整備計画

機械施設名	規格能力	台数等	金額(円) (税込)	導入予定年月	本事業による 導入機械に○
乗用管理機	17馬力	1	2,781,020	R4.1	○
堆肥散布機	2.0t積	1	1,322,200	R4.9	○
白ネギ根葉切り機		1	764,500	R4.9	○
乗用コンバイン	4条 48馬力	1	7,762,700	R5.9	○

9 添付資料

○人材確保型支援は研修計画一覧（参考様式）、規約の写し及び計画の根拠が分かる資料（総会資料又はビジョン作成話合いの議事録等）を添付すること。

○規模拡大・発展型支援は集積状況一覧（別表1、2）、機械の利用計画（別紙）、規約の写し及び計画の根拠が分かる資料（総会資料又はビジョン作成話合いの議事録等）を添付すること。

注1) 目標年度は、事業実施最終年度の翌年度から3年以内のいずれかの年度で設定すること。

2) 経営面積等の現状及び目標は、集積状況一覧（別表1、2）により作成すること。